

テクノエクセル株式会社

「自然豊かな地で生まれた水関連のモノづくり技術」

[製造業]

家電製品などの機能部品製造

代表者名：代表取締役社長 神林憲嗣

従業員数：240人

創 業：明治8年

住 所：須坂市大字須坂字八幡裏 1588

T E L：026-245-0121

事業内容：全自動洗濯機、食器洗い乾燥機、温水洗淨便座などに使用される機能部品および浄水器、車載関連部品等の設計、製造、販売

給 与：20万円～

<http://www.exl.jp/>

須坂駅近くに本社を構えるテクノエクセルは社員数240人で、水や空気を制御する電子・電気の技術を応用した部品を製造している会社です。例えば、浄水器や全自動洗濯機、食器洗い乾燥機、温水洗淨便座などに使われる水関連の部品で、どれも人々の暮らしに密着した製品ばかりです。

創業は1875年。当時、須坂市の主幹産業であった製糸業の会社として始まり、時代とともに機械加工の生産へと変化しました。現在は家電のみならず浴室用のミストサウナなどの住宅機器、製氷機などの業務用機器の部品まで幅広い領域に力を注いでいます。また、中国やベトナムなど海外にも会社を作り世界に向けて事業を展開しています。

代表取締役専務（現社長）の神林憲嗣さんと管理本部総務グループ長の井ノ浦勇一さんに、会社の仕事や特長について話を聞きました。



●テクノエクセルグループの総合力

テクノエクセルは製品の問題解決まで責任を持ち

信頼されるモノづくりを目指しています。

「わが社は自社で開発から量産、出荷までを行うのが強みです。企画から設計・開発を経て、金型を製作し、その金型から部品を造り、生産技術による生産機器・検査機器の製作、組立製造、検査、販売、そして保証までを社内で一貫して行っています」



テクノエクセルが誇る一番の特長は、流体・気体を高精度に制御したり計測したりするための数々の「要素技術」を保有していることです。要素技術とは、例えば全自動洗濯機の洗濯槽の水位を測る水位センサーや、注水、止水を自動で行う電磁給水弁に役立つ技術です。私たちが家庭で洗濯機を動かしながら他の家事ができるようになったのもこの技術のおかげです。



このようにテクノエクセルでは、人々に便利で快適な暮らしを提供することに貢献し、何よりも「お客様第一」の精神を原点に常に技術革新を目標に取り組んでいます。

●アジアを基盤にグローバルな展開

テクノエクセルの顧客企業は海外を含めると150社余りになります。社員数は国内外のグループ全体



で約 2,000 人と大規模です。設計や生産など、それぞれの事業の最適地を日本・中国・ベトナムから選んでいます。現在は中国に 2 か所、ベトナムに 1 か所それぞれ拠点を置いています。海外勤務も可能なので、外国語が得意な人で自分を試したい人は良い経験が積めるのではないのでしょうか。



●あたたかな社風です

「社員は須坂市内にとどまらず長野地域の広い範囲から通勤しています。比較的ベテランの中堅社員が多く、男女の比率は約半々です」社内結婚もあるそうで、今はお嫁さん募集中の男性社員が多いとか？もしかしたら女性の応募は歓迎されるのでしょうか。神林専務と井ノ浦グループ長は、そんな砕けた話もしてくれました。

テクノエクセルには社員のクラブ活動があり、バドミントンやバレーボール、スキー、釣りなどに参加できます。活動にあたっては会社から補助が出ます。なかでも釣りクラブは海へ行くことも多いそうです。その他の行事では、年に 2 回のボーリング大会や、文化祭と題し



て社員が各自で手掛けた絵画などの作品を社内に掲示し、人気投票で商品券がプレゼントされるなどユニークなイベントも行っています。また、年に 1 度温泉で一泊する慰安会が開催され、毎回 100 人くらいが参加するとのこと。特徴的な制度として、自分の誕生日は休日になる誕生日休暇制度もあります。社員一人ひとりを大切に作る温かさが感じられる社風です。



●理想の社員像

「お客様に新しい提案をしたり、与えられた課題をコーディネートしてまとめあげる応用力は必要ですね。お客様の要望を理解して当社の要素技術に展開することが課題です」テクノエクセルでは、お客様との信頼関係を深めることができるような製品づくりに最善の努力を積み重ねています。



理想の社員像は「任された立場やポジションで頑張れる人、コミュニケーションのとれる人がいいですね。テクノエクセルは人と人の繋がりを大切にしたいいわゆる田舎ならではの良さがある会社です」理想の社員像にコミュニケーション力を求めるのは、このお二人のお人柄を見ればうなずけます。

経営理念にある「私たちにしかできないもの」を提供し続けるこのテクノエクセルで、あなたも自分にしかできない技術を発揮してみませんか？



(2017 年 7 月インタビュー)